



【第14回・1月9日】前夜、式典会場。音響の調整に苦労。
 【第13回・1月6日】プレゼン内容が仕上がりに、みんなで並んでリハーサル。
 【第12回・1月5日】当日の役割分担を決定。BGMも決まりました。
 【第10回・12月27日】【第11回・12月28日】グループに分かれて作業中。スクリーンに映す写真を撮映。
 【第9回・12月22日】会場となる総合体育館を訪れ、当日のイメージをふくらませて。
 【第8回・12月19日】回を重ねてみんながまとまってきました。団結を確認した1枚。
 【第7回・12月15日】大まかな構成を決めて役割分担し、それぞれ調べることに。
 【第6回・12月7日】環境問題の講話を聴き、課題の大きさを改めて認識。
 【第5回・12月1日】テーマに沿って、記念行事の具体的な内容を話し合い。
 【第4回・11月24日】グループ討議を行い、自分たちで何かをやりたいと意思を確認しあった。
 【第3回・11月19日】教育委員会が新成人に意見を聞く場としてスタート。

企画委員会
活動の軌跡



8



1 新成人、来賓、家族が見守る中、記念行事がスタート
 2 パソコン操作を担当した千葉健也さん(左)、小野寺晃宏さん
 3 オープニング、テーマの意味を説明した小野寺健太さん(左)、高橋真美さん
 4 ナレーションを担当した盛田綾乃さん
 5 世界の地球環境の現状を伝える映像に見入る新成人
 6 エンディング、委員が登壇し身近なエコ活動の実践を呼びかけました
 7 企画委員会の提案により市が準備した記念品
 8 終了後、達成感でいっぱいの企画委員の笑顔



1300人の力をカタチにしたい
 未来の自分たちのために
 身近なエコ活動の実践を呼びかけ

「1300人が一堂に集まる機会はこれが最初で最後。楽しく思い出に残る成人式にしたい」と成人式のあり方について新成人自身の考えを聞き、反映させたいと市教育委員会が公募して始まった成人式企画委員会。各地域から集まった17人が心に強く抱いた思いが、冒頭の言葉です。

11月5日の初会合の後、11月24日までに4回のワークショップを重ね、▽記念式典、アルバム作成はこれまで通り行ってほしい▽アルバムにはCDも添付してほしい▽記念品はエコに配慮した、いつも使えるものに▽思い出に残る記念行事を行い、企画・運営は企画委員が行うーなどの意見をまとめ、教育委員会に報告しました。

どのような成人式のあり方が望ましいか、考えていく過程で、「1300人の新成人で何かをやるのは一閃で初めて」「生まれ育った地域に恩返ししたい」などの声が高まりました。実際に何をするかとなった時、多くの委員から出た

「1300人が一堂に集まる機会はこれが最初で最後。楽しく思い出に残る成人式にしたい」と成人式のあり方について新成人自身の考えを聞き、反映させたいと市教育委員会が公募して始まった成人式企画委員会。各地域から集まった17人が心に強く抱いた思いが、冒頭の言葉です。

11月5日の初会合の後、11月24日までに4回のワークショップを重ね、▽記念式典、アルバム作成はこれまで通り行ってほしい▽アルバムにはCDも添付してほしい▽記念品はエコに配慮した、いつも使えるものに▽思い出に残る記念行事を行い、企画・運営は企画委員が行うーなどの意見をまとめ、教育委員会に報告しました。

「わかりやすい呼び掛けに大きな賛同の拍手と声がある」として成人式当日、式典に続いて午後2時から、記念行事が始まりました。暗くなった会場で「考えたことがありますか」という呼び掛けから、大型スクリーンで飢餓や感染症の大きな原因が地球温暖化であることを挙げ、気候変動による動植物の絶滅や異常気象による大災害などを紹介。

その上で市の環境問題への取り組みをクイズを交えて説明しながら、自分たちができることとしてエコドライブの実践、マイバック持参によるレジ袋削減を提案。最後に委員がステージに上がり、「未来のわたしたちのために、地球環境の現状を知った今、身近なエコを今日から始めましょう」と呼び掛けると、賛同の大きな拍手が送られました。

真剣に提言を聞いた会場の新成人の菅原奈加さん、花泉町は「勉強や仕事をしながら企画した皆さんはすごい。地球環境の深刻な状況を認識し、エコバックなどできることからエコに協力したい」と語り、2階席で見ていた家族は「若い人なりの真剣さを感じた。仕事をする上でも企画力が求められるので、自分たちで考えることは良いこと」と評価しました。

企画委員会ワークショップのファシリテーター(進行促進役)を務め、支援した市民活動センターの小野寺浩樹さんは「準備期間が短かった中、世界情勢から地域の現状までわかりやすくまとめてあり、頑張ったなと感動した。実践する大人として、これからも先を見て行動して欲しい」とエールを送りました。

企画委員の盛田綾乃さん、台町は「ここまで計画したことが実行に移せたことに感動。会場のみならずも呼び掛けに拍手で応えてくれたら良かった。企画委員は、意見をぶつかり合わせる過程を経て、また何かあれば集まれる仲間になったのでは。これからは自覚を持ってふるさと一関を盛り立てていきたい」と興奮冷めやらぬ表情で語ってくれました。

平成生まれの新成人の新しい取り組み。二十歳の若者が、ふるさと一関について、自分たちの未来を本気で考える契機になったのではないのでしょうか。

「1300人が一堂に集まる機会はこれが最初で最後。楽しく思い出に残る成人式にしたい」と成人式のあり方について新成人自身の考えを聞き、反映させたいと市教育委員会が公募して始まった成人式企画委員会。各地域から集まった17人が心に強く抱いた思いが、冒頭の言葉です。

11月5日の初会合の後、11月24日までに4回のワークショップを重ね、▽記念式典、アルバム作成はこれまで通り行ってほしい▽アルバムにはCDも添付してほしい▽記念品はエコに配慮した、いつも使えるものに▽思い出に残る記念行事を行い、企画・運営は企画委員が行うーなどの意見をまとめ、教育委員会に報告しました。

どのような成人式のあり方が望ましいか、考えていく過程で、「1300人の新成人で何かをやるのは一閃で初めて」「生まれ育った地域に恩返ししたい」などの声が高まりました。実際に何をするかとなった時、多くの委員から出た

「1300人が一堂に集まる機会はこれが最初で最後。楽しく思い出に残る成人式にしたい」と成人式のあり方について新成人自身の考えを聞き、反映させたいと市教育委員会が公募して始まった成人式企画委員会。各地域から集まった17人が心に強く抱いた思いが、冒頭の言葉です。

11月5日の初会合の後、11月24日までに4回のワークショップを重ね、▽記念式典、アルバム作成はこれまで通り行ってほしい▽アルバムにはCDも添付してほしい▽記念品はエコに配慮した、いつも使えるものに▽思い出に残る記念行事を行い、企画・運営は企画委員が行うーなどの意見をまとめ、教育委員会に報告しました。



7